

## 第 1 回山城地域における府立学校再編整備に係る懇談会概要

- 1 日 時：平成16年7月29日（木）午後3時～午後5時
- 2 場 所：京都府総合教育センター会議室
- 3 内 容：山城地域における府立高校の再編整備について
- 4 配布資料：別添のとおり
- 5 主な意見

### （1）高校の適正規模と適正配置について

#### 委員から

- ・適正規模は8学級程度が望ましいと思う。教職員の切磋琢磨、生徒の切磋琢磨、学校全体の教育力を考えると、ある程度の人数は必要。逆に8学級未満はマイナス面が多すぎるように感じる。
- ・学校規模が大きすぎても弊害はある。学校全体で30学級を超えると施設面での問題がでる。1学年あたり8学級程度が適切である。部活動をするにも一定の生徒数、教職員数が必要である。
- ・学習面については、学力をつけるにあたり、規模が小さければ多様な教育展開ができない。生徒の多様な進路希望に対応した講座を開講する等きめ細かな教育を行うにも一定の規模が必要だ。
- ・単に適正規模8学級を前面に出して統廃合を進めるというのではなく、特色ある学校をバランス良く配置するという視点も大切である。
- ・適正規模の共通認識は必要である。1学年あたり8学級で計24学級。このあたりが、相対的に見て最も教育を充実できる規模ではないか。その一番大切な適正規模を突き詰めていけば、おのずと必要な学校数も見えてくるのではないか。
- ・教育は社会を支える根幹であり、今後の教育は量よりも質である。質を向上させるためには、一定の学校規模の確保が必要だ。適正規模の観点は是非とも経済性、効率性だけでなく、教育面から重点的に考えていただきたい。
- ・高校の発展的統合について、いつごろの時期を考えているのか教えて欲しい。在校生のことも考え、事前に募集を停止するなど十分な準備期間が必要である。

#### 府教委から

- ・発展的統合は、単に学級数だけで議論することは考えていない。多様な生徒に対応し、魅力ある新しい高校を誕生させるものである。
- ・発展的統合は、皆さんの意見を十分に聞き、一定のご理解を得ながら、できるだけ早く進めていきたい。その際には、十分な周知期間等を設けたい。

## (2) 高校に入学した生徒の状況等について

### 委員から

- ・ 将来的に見て、高校はどうしていくべきか。また、養護学校はどうしていくべきか。それぞれに議論していくべきだ。その際、高校については平成16年度から通学圏が拡大されており、山城地域全体としての視点からその動向も見えていく必要がある。
- ・ 毎年度選抜制度など変更しすぎている感がある。平成16年度選抜改善により、進路先が広がったという意見もある反面、マイナス面もあったのではないか。生徒指導についてもスムーズにいったのだろうか。そういった情報があれば教えていただきたい。
- ・ 昔は小学校、中学校、高校とずっと同じ仲間だけであり、刺激が少なかった。現在は進路指導は大変であるが、選べる高校が増えたことはいいことである。選ぶことが大変ということはあるが、それ以上に生徒間の刺激は大切である。
- ・ 魅力ある高校を作っていく、公立が活性化すれば私学も活性化し、教育全体が向上する。広い地域から生徒が集まることは大切である。
- ・ 高校は今まで地域性を重要視してきた。今後、地域性が薄れていくことが心配である。
- ・ 今回の選抜改善は不安もあったが、実際に生徒は自ら目的意識を持って選択していることは事実である。ただ地元の高校に進学する割合は確実に減少しており、それがさびしいという意見もある。
- ・ 高校は一生懸命努力されているが、地元の高校という意識は大切である。今後それをどうしていくかが課題ではないか。
- ・ 一般選抜の高校間の倍率はそれほど格差がなかった。募集定員の決め方が良かったのかなとも思うが、一方で、そのような状況下でどこを統廃合していくのか課題がでてくる。
- ・ 行きたい高校を選んだという意見が多いが、行きたい高校を選べなかったという生徒もいる。中退者が多くなっていないか、そのような状況も教えていただきたい。倍率の平均化は事前指導によるものが大きかったのではないだろうか。
- ・ 聞くところによると部活動の入部率も増加しているなどプラス面の話も多く聞く。
- ・ 近年の高校卒業の状況や進路先などがわかれば今後の改革の参考にもなると思う。
- ・ あまり行きたくなかった高校に行くことになった生徒のフォローが重要である。いい面、悪い面の両面から見て、悪い面を消していくことが必要である。

### 府教委から

- ・ 高校の地域性とは、小学校、中学校に比べかなり広いと考えている。当然近いところへ行きたいという生徒もいるが、遠方から高校を選択して入学してくる生徒も実際に多くいる。当然学校が地域との交流を深めていくことは大切である。
- ・ 制度改革は保護者や生徒に正しく制度を理解してもらうことが重要である。教育は短い期間ではなく、長い目で評価していかねばならない。今後も中高の連携が大切である。

### (3) 養護学校について

#### 委員から

- ・ 養護学校を設置するとなった場合、大変な時間を要する。在り方懇話会ではすぐにも動き出すような感があったが。
- ・ 生徒数全体は減少しているが、障害のある生徒は逆に微増傾向にある。
- ・ 確かに障害のある生徒は増えている。それに施設が追いついてきていない。北部は舞鶴に養護学校が新設され改善されるが、南部では改善されていない。教育の安全面から見ても、教員の苦勞から考えて見ても対応が必要である。

#### 府教委から

- ・ 障害のある生徒が増えている中、早急な対応が必要であると考えている。
- ・ 次回の懇談会では、養護学校の再編整備について説明させていただき、皆さんからご意見をいただきたい。